

県民の意思を反映させる活動、これからも

県民投票で決める会が怒りの報告集会

4月の臨時県議会において、全県で直接請求署名が14万3196筆も集まった「柏崎刈羽原発の再稼働の是非を問う県民投票条例案」は自民、公明、真政にいがた（連合新潟推薦）の議員が反対して否決されました。それをうけて、25日、市民プラザで「怒りの報告集会in上越」を開催、これまでの運動の到達点を確認し、怒りと運動の成果を今後の運動につなげていこうと決意を固めました。

集会では運動にかかわった牧田、馬場、土田3県議が挨拶（土田県議はメッセージ）し、「連日、傍聴者がいっぱいとなり、県議も知事も県民の声を感じながら質問、答弁していた。これから闘いは続く。参院選や知事選につなげていきたい」「知事や自民党の議員は、あなた方の声は聞きたくない」という姿勢だった。県民はお客さん扱いされていたが、私たちは主権者の一人として（再稼働の是非に）参加したいのだ」「知事の冷淡な姿勢、皆さんの意見に危機感を示したことの表れ」などとのべていました。

続いて「県民投票で決める会・上越」代表の片岡豊さんがこれまでの活動を振り返り、市内の有効署名が1万4170筆（全県の有効署名数の9・9%）となり、上越での運動が全県の運動に大きく貢献したことやキックオフ集会から始まって受任者の集い、シンポジウムの開催などの取組が署名活動の広がりをつくって、「県民で決める」意識の醸成につながったことなどを報告しました。片岡代表はまた、「二者択一では県民の多様な意見を把握できない」などとした知事の見解、それを忖度した参考人発言、自公などの否決のための論理性のない質疑は不誠実で、県民を愚弄したものだったとのべました。そして最後に、今後の対応として、県の説明会や首長対話、市議会などでの積極的な活動、参院選での勝利をめざす活動の重要性を訴え、結びました。

参加者からは、「憲法と原発のことが大事で、いつも頭の中ぐるぐる回っている。再稼働を止めるには、また福島のような事故が起きなければダメなのかと思った。人間の命を虫けら扱いしてはいけない」「原発再稼働に賛成の人からも県民投票に賛成してほしいと思い、頑張ってきた」「県議もただでしかわかっていないのか」などの発言が相次ぎました。



6月定例議会は3日～17日

6月定例市議会は3日から始まります。会期は17日までの15日間です。
提出される議案は今年度の一般会計補正予算など10件です。他に報告4件があります。

今定例会は異常な物価高などが続くなかで市民の暮らしをどう守るかが焦点です。秋の市長選を前に中川市長が出馬するかどうかははっきりすることでしょう。

6月議会の日程（会議開始時間はいずれも10時）

日（曜日）	会議名	会議室	備考
3日（火）	本会議	議場	提案説明
4日（水）	厚生委員会	第一委員会室	付託案件審査
5日（木）	農政建設委員会	第一委員会室	付託案件審査
6日（金）	文教経済委員会	第一委員会室	付託案件審査
9日（月）	総務委員会	第一委員会室	付託案件審査
10日（火）	一般質問	議場	
11日（水）	一般質問	議場	
12日（木）	一般質問	議場	
13日（金）	一般質問	議場	橋爪登壇
17日（火）	本会議	議場	議案採決



吉川区で4月上旬に誕生したコウノトリの3羽のヒナのうち1羽が5月28日の朝、ジャンプを始めました。ジャンプは巣立ちの準備行動で、10日ほどジャンプの練習を重ねた後、飛び立ちます。

【ナツハゼ】（再掲）。ツツジ科の落葉低木。漢字で「夏櫨」と書きます。数年前、柏崎市の友人がこの実のジャムをつくったと聞いてから、この花が咲くのを待ちました。花も実もブルーベリーに似ているのにはびっくりしたものです。花期は5月～6月。花言葉は「飾らぬ美」。目立たないだけに惹かれます。21日、吉川区代石にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2205 2025.6.1

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL https://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見である記」は ←こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八五二回 ツルマンネングサ

よく晴れた先日の午後、久しぶりに連れ合いの実家に行ってきました。当主である義兄だけでなく、近くのアパートに住む義姉夫婦もいて、五人で楽しいひと時を過ごすことができました。

訪ねたとき、義兄は玄関先で近所の人とおしゃべりをしていて、義兄夫婦は家の周りの片付けなどをしていました。家の周りにあったサクラやスイセンなどの春の花はすっかり終わっています。初夏のほどよい天気のおかげで雑草たちが元気を出し、ぐんぐん伸びていました。

妻の実家は義兄が入院したことにより、長らく留守になっていました。義兄が二度にわたる手術を乗り切り、ようやく実家に戻れるくらい体力がついてきたことから、義姉夫婦が家の周辺の片づけを手伝いはじめたようです。

やはり初夏ですね。この日は外にいと暑いくらいで、時折吹く風が気持ち良いものでした。五人は最初、玄関前の石やコンクリートの構造物に座って話し始めたのですが、真四角の素敵なベンチ風の石がいくつか丸く並んでいる庭の一番いい場所に移動することにしました。

移動の途中、家の瓦屋根の先にある「トヨ」が目に入りました。普段は雨を流すためにあるものですが、そこにいろんなものが溜まり、「紅葉（もみじ）の赤ちゃん」とも言えるものが少し紅い葉を出し始めていました。義父が植えたと思われる紅葉の木の種類が飛んで行ったのでしょうか。

五人が座った場所は庭のほぼ真ん中にあります。すぐそばに太いヤマユリが一本伸びていました。「これ、ヤマユリだよ」と言っていると、「あそこにもあるよ」「もっと奥の方にもある」という言葉が続きました。これらのヤマユリは、亡き義父が「キタハラさん」という家のりっぱなヤマユリを見て植えたらしい。「父ちゃん、流行に

聡（さと）いからね」という誰かの言葉から、子どもの名前の話で賑やかになりました。私の父が「名づけ親」になった時、当時人気だった歌手の名前をつけたことを紹介すると、「いまの子どもの名前は難しく読めないものが多い」「名前にはフリガナをつけてもらいたい」という声が出て、みんな納得した顔になりました。

五人はすべて七十代です。どうしても懐かしい思い出になります。柏崎の家に行く途中、亡き義母と同じく、何かの台に座って黙々と家の周りの草取りをしていた人がいたことを私から話しました。すると、どこでどうつながったのかわかりませんが、「囲炉裏のところで杉葉を燃やしていたら、そこにムカデが三匹出てきた」「次は刺されると怖くなった」「ノリカズさんは二階に出てきたムカデを捕まえてすぐに刺された」などとムカデが話題の中心になりました。

この日はヤマユリだけでなく、ササユリやヒメサユリ、ユキワリソウなどの植物のことも大きな話題となりました。

みんなで話をしていた空間の真ん中には、草丈が二〇センチほどで、黄色い花を咲かせているものが地を這うように広がっていました。明らかに性植物です。茎にはとがった葉がついていましたが、花そのものはとてもかわいくて、きれいです。

私がこれらの花の中央部分にスマホを向けて写真を撮り、検索を始めたら、「ツルマンネングサ」という植物であることがすぐに判明しました。「これ、ツルマンネングサって、言うんだって」と言っていると、義姉が「こんなにも簡単にわかるの」と言っていて驚いていました。

ツルマンネングサの花言葉は「持続性」と「希望」です。この花言葉にあやかり、まずは義兄に元気になってほしい。そしてこれからもみんなの笑顔がみたいです。

原発、農業危機中心に皆さんの声を 8日に馬場県議と橋爪を囲む会

8日（日）の14時から15時半まで吉川多目的集会場において、「馬場県議と橋爪市議を囲む会」を開催します。

今回の会では、馬場県議が先の臨時県議会での「柏崎刈羽原発再稼働の是非を問う県民投票条例」の制定を求める直接請求の審査の様子を中心に、私は昨今の農業情勢と危機打開の方向について、それぞれ15分ほどお話しし、その後は参加者の皆さんのご意見や質問、提案などをじっくりお聴きする予定です。

ぜひご参加ください。

イラストは朝市風景。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月21日(水)	5月28日(水)
上越消防署	0.050	0.057
上越南消防署	0.043	0.040
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.053	0.043
頸南消防署	0.063	0.063
東頸消防署	0.043	0.040
名立分遣所	0.053	0.050
高士分遣所	0.053	0.050

霜田誠二絵画展を観て

仲町の「もと山静堂」で開催されていた霜田誠二絵画展を観てきました。ネコや人間などを題材に布に描かれた絵は親しみやすく、心に響きました。

霜田さんは長野市在住、世界を駆けまわる芸術家であり、パフォーマーでもあります。会場は旧町屋、すべての空間を活用し、トイレに至る廊下まで作品が展示されていました。

